

公益事業レポート 2022

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞 授賞



「すべての人びとのいのちと環境のために」



すべての人びとのいのちと環境のために

当財団は、2013（平成25）年4月1日に一般財団法人東京顕微鏡院に移行しました。

新制度下において、一般財団法人に移行した法人は、これまで法人内部に留保した財産（公益目的財産）を、自ら定めた公益目的支出計画に基づき、公益事業に毎年一定額を使用することが義務付けられています。

令和4年度を振り返って

2022（令和4）年度は、新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、東京顕微鏡院は新型コロナウイルスのPCR検査を実施するなど、時代のニーズに合わせた新たなサービスを提供しました。こころとからだの元氣プラザでは、胸部X線診断における読影の負担軽減と精度維持のため、AI診断など最新の技術を取り入れたうえで、人間ドックと健康診断で合計6万人を超える受診者の検査を行いました。

また、公益事業は41,589千円を支出する計画とし、遠山椿吉賞の選考・表彰や、各種セミナーの開催、調査研究などを実施し、44,498千円の結果となりました。

15年目を迎えた遠山椿吉賞

当法人創業者で医学博士遠山椿吉の生誕150年、没後80年を記念して2008（平成20）年に創設した遠山椿吉賞は、公衆衛生と予防医療の分野における研究者を対象とした顕彰制度です。「遠山椿吉記念 食と環境の科学賞」と「遠山椿吉記念 健康予防医療賞」の2つの分野について、隔年で選考顕彰しております。

2022（令和4）年度は、8回目の「食と環境の科学賞」となり、ナノマテリアルの健康リスクを生殖科学・アレルギー学・神経科学等の幅広い分野で解明した研究を顕彰しました。また、同賞応募者のうち40歳以下の応募者を対象とする遠山椿吉記念 山田和江賞には、トキソプラズマの脳感染メカニズムの解析結果からその増殖を制御する物質の同定までを解明した研究を顕彰しました。

遠山椿吉賞は、選考委員の先生方の本賞の主旨に対する真摯な思いと、厳正なる審査により、公衆衛生と予防医療に関する研究を通して、社会福祉に貢献する研究者に光をあてる顕彰制度として、わが国に根付きつつあることを感じております。改めて当財団の創立者、遠山椿吉博士に心からの感謝を捧げたいと思います。

数年ぶりに対面でセミナーを開催

コロナ禍で休止またはリモート配信としていた公益セミナーは、2022（令和4）年度より対面での開催を順次復活させました。「健康維持・増進に関するセミナー」では、健康寿命の延伸をテーマに企画し、3年ぶりに対面で開催しました。

また、40年以上にわたって開催している「食と環境のセミナー」も「コロナ禍におけるHACCP衛生管理」をテーマとし、4年ぶりに対面開催しました。

また、次世代の研究者の育成を目的とし、東京都中央区の区立小学5・6年生および、創立者遠山椿吉博士の生誕地、山形県山辺町の山辺小学校6年生を対象とした、夏休み「こども研究者体験」セミナーも3年ぶりに開催しました。

事業を通じ「健康な命」を守り、人々を幸せに

創立者の遠山椿吉博士は、人びとの健康な命を脅かしていた結核や脚気の治療や研究に取り組むなど、人びとの大切な命を守るために尽力しました。新型コロナウイルス流行の影響が続く中、公

衆衛生・予防医療において貢献し続けることが、創立者の信念を受け継ぐ現在の私たちの役割であり、決意を新たに臨みたいと思います。

「健全な生活環境」を追求する東京顕微鏡院と、「健康なこころ」「健康なからだ」を追求するところとからだの元氣プラザは、これからも人びとへ寄り添い社会に貢献する事業に取り組んでまいります。

2023（令和5）年6月

一般財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団ところとからだの元氣プラザ



理事長

山 田 匡 通

学術振興 (遠山椿吉賞)

すべての人びとのいのちと環境のために

2008(平成20)年度、当法人創業者、医学博士遠山椿吉の生誕150年、没後80年を記念して創設した、公衆衛生と予防医療の分野における研究者を対象とした顕彰制度です。「遠山椿吉記念 食と環境の科学賞」と「遠山椿吉記念 健康予防医療賞」を設け、隔年で選考顕彰します。2015(平成27)年度から、若い研究者を支援する「山田和江賞」も、新たに加わりました。2022(令和4)年度は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、規模を縮小しての授賞式を執り行いました。



遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞

2022(令和4)年度は、食品の安全、食品衛生、食品の機能、食品媒介の感染症・疾患、生活環境衛生を重点課題としました。「遠山椿吉賞」は日本の公衆衛生において、人びとの危険を除き、命を守るために、先駆的かつグローバルな視点を持ち、地道に社会への貢献を追求する研究者(個人または研究グループ)を顕彰する賞です。「山田和江賞」は、40歳以下(応募年の4月1日現在)の応募者に対し、その優秀な研究成果を顕彰するとともに、研究のさらなる発展を奨励する目的で、賞状、記念品および賞金100万円を贈呈し顕彰するものです。故山田和江名誉理事長・医師の、50余年にわたるご貢献を記念して創設されました。

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞



堤 康央 (つつみ やすお) 氏

大阪大学大学院 薬学研究科 名誉教授

「食品に含有されるナノマテリアルの次世代影響等、
安全性評価に関する研究」

副賞 300万円

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞 山田和江賞



伴戸 寛徳 (ばんど ひろのり) 氏

旭川医科大学 医学部 寄生虫学講座 准教授

「食品媒介性原虫の潜伏感染メカニズムの解明と
制御技術の新規開発」

副賞 100万円

選考の過程

2022(令和4)年3月から学会等192団体およびマスメディア67媒体に資料を送付し、日本全国の大学関連学部学科391ヶ所、主な研究機関等95ヶ所に応募案内を送り、6月末日には25件のご応募をいただきました。

選考プロセスは、一次審査・選考委員会という二つのステップで進めました。一次審査では、各選考委員に25件すべての応募論文に目を通していただき、四つの評価軸(①公衆衛生への貢献度、②研究・技術の独自性、③技術の普及の可能性、④社会へのインパクト)で五段階評価を付けていただきました。評価票の集計資料は各委員に事前に読んでいただき、選考委員会では本賞の趣旨と本年度の重点課題を確認し、十分に討議を重ねて受賞候補者の選出に至りました。

この選考委員会の結論は、当法人・医療法人合同の経営会議にて選考委員長よりご報告いただき、お二方の授賞が決定しました。

- 3月「遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞」広報ホームページ掲載
- 4月 公募開始
- 25件 応募
- 6月末日 締め切り (7月～9月 選考プロセス)
- 遠山椿吉賞 選考
本賞・山田和江賞 推薦
- 8月 選考委員会
- 10月 経営会議で決定
- 2月 授賞式・記念講演会 食社会



創業者 遠山 椿吉 (とおやま ちんきち)

1857(安政4)年、山形県生まれ。東京大学医学部において別課医学を修めた後、山形県医学校長心得などを歴任。1888(明治21)年、東京医科大学撰科に入学し、衛生学および細菌学を研究。1890(明治23)年1月、帝国医科大学国家医学科に入学、同年4月卒業証書を授与される。1891(明治24)年、東京顕微鏡院の前身である東京顕微鏡検査所を創立。かたわら東京慈恵医院医学校(東京慈恵会医科大学の前身)講師、東京市衛生試験所長などの職を兼ねる。特筆すべき業績は、東京顕微鏡学会の創立、ペスト菌の研究、脚気の治療方法の研究、東京の水質管理を担い、水道の衛生管理に尽力。また保健部を新設し、予防医療を展開するなど多岐にわたる。機関紙「顕微鏡」「東京顕微鏡学会雑誌」を主宰し、医事衛生に関する数多くの著書や短歌を残し、華道、庭園学などについても著述している。亡くなる1年前にそれまでの人生を振り返り、思想哲学をまとめ「人生の意義と道徳の淵源」を上梓した。1927(昭和2)年、東京顕微鏡院を財団法人とし、初代院長に就任。1928(昭和3)年10月1日逝去。享年71。

2月8日 遠山椿吉賞授賞式・受賞記念講演会・お食事会

日 時：2023(令和5)年2月8日(水)
会 場：ホテルメトロポリタンエドモント(東京・飯田橋)
参列者：受賞者および関係者、選考委員、関連研究者、
報道関係者、当法人関係者など40名

「遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞」の授賞式・記念講演会・お食事会を、2023(令和5)年2月8日(水)にホテルメトロポリタンエドモント(東京・飯田橋)にて開催しました。授賞式には、選考委員の先生方を始め、研究者、報道関係者ほか当法人関係者など、40名を超す参列者が祝福に集まりました。

授賞式 式次第

- ◎授賞式(本館3階 春琴)
開式の辞 一般財団法人 東京顕微鏡院
副理事長、公益事業室担当理事
医療法人社団こことからの元氣プラザ
副理事長 高橋 利之
- 選考委員紹介
選考委員長講評・ 公益財団法人黒住医学研究振興財団
受賞者紹介 理事長 渡邊 治雄
(国立感染症研究所 名誉所員〈元所長〉)
- 表 彰
- 祝 辞 一般財団法人 東京顕微鏡院
医療法人社団こことからの元氣プラザ
理事長 山田 匡通
- 来賓祝辞 内閣府食品安全委員会 委員 川西 徹
大阪大学微生物病研究所
感染機構研究部門 高等共創研究院
教授 岡本 徹
- 受賞者挨拶 大阪大学大学院 薬学研究科 荣誉教授 堤 康央
旭川医科大学 医学部 寄生虫学講座
准教授 伴戸 寛徳
- ◎受賞記念講演会(本館3階 春琴)
講 演 堤 康央
伴戸 寛徳
- ◎受賞記念お食事会(本館3階 千鳥)

◆開式の辞



高橋 利之

一般財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団こことからの元氣プラザ副理事長

本日はこの授賞式に大勢の皆さまにお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。この数年では、オンラインで表彰式のみで開催をしていた状況ですが、授賞式を対面で開催するのは本当に久しぶりでございます。授賞式終了後にお食事をご用意しておりますが、コロナの流行期が完全に終結したわけでありませので、着席での懇談としたいと思います。ぜひご参加いただければと思います。皆さまにお集まりいただき対面で開催できることを、私ども一同大変喜んでおります。それでは、第8回遠山椿吉賞授賞式を開催させていただきます。

◆選考委員長講評



渡邊 治雄 氏

公益財団法人黒住医学研究振興財団 理事長
国立感染症研究所 名誉所員(元所長)

今回の選考委員会では、公衆衛生の貢献度、研究技術の独自性、技術の普及の可能性、社会へのインパクトという4つの選考基準で討議いたしました。総合的に見て公平性が保たれ、その上で優秀な方が選ばれたと、選考委員会としては自負しております。

本年度の遠山椿吉賞は、大阪大学大学院 薬学研究科 荣誉教授、堤康央先生(「食品に含有されるナノマテリアルの次世代影響等、安全性評価に関する研究」)を選考しました。ナノマテリアルは、化粧品や栄養食品など、多くの分野で活用が期待されていますが、安全性の面で、あまりデータがありませんでした。堤先生はマウス等で健康影響評価を行い、今後はヒトへの影響について研究されるということで、社会的なインパクトも高く、満場一致で選ばれました。

続いて山田和江賞は、旭川医科大学 医学部 寄生虫学講座 准教授、伴戸寛徳先生(「食品媒介性原虫の潜伏感染メカニズムの解明と制御技術の新規開発」)を選考しました。トキソプラズマは動物からヒトに感染した際、致死的な影響を及ぼす脳症状を起こしますが、伴戸先生は、感染のメカニズムを理解し、治療法の開発に取り組んでおられ、さらなる成果を上げることを期待して、こちらも満場一致で選ばれました。両方とも、今後の研究が非常に期待される分野ですので、この受賞が他の研究者の引き金となってくれることを期待しております。本当におめでとうございます。

◆祝 辞

一般財団法人東京顕微鏡院 医療法人社団こころとからだの元氣プラザ
と記念 第8回 食と環境の科学賞



山田 匡通

一般財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団こころとからだの元氣プラザ 理事長

皆さま、本日は遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞の授賞式にご参加いただき、誠にありがとうございます。そして、受賞者の堤先生、伴戸先生に心からお祝いの言葉を申し上げます。本当におめでとうございます。

また、25件もの応募研究に対し、真摯に評価をしていただきました、渡邊先生以下、選考委員の先生方にも、心から感謝を申し上げたいと思います。

さて、1891（明治24）年に東京顕微鏡院を創立した遠山椿吉博士は、赤痢、チフス、ペストなどの伝染病から人々の健康を守るため、特に東京における安全な水道水の普及に貢献され、そのころ大きな論争となっていた脚気の原因究明にも多くの業績を残されました。

戦後になり、東京顕微鏡院は私の母である山田和江によって再興されました。健康医療事業が独立し、医療法人社団こころとからだの元氣プラザとなったのが2003（平成15）年です。環境衛生を追求する東京顕微鏡院と、人々の健康、特に病気の予防について追求する元氣プラザ、現在はこの2つの事業を同時に運営しています。

創立以来、私たちが132年間追求してきた「健康な命を守り、育成して増進していく」というテーマが、まさに今回、遠山椿吉賞の研究成果として結実していると感じ、改めて受賞者のお二人に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、どのような環境であっても「健康な命」を追求する事業の継続のため、頑張っていきたいと思います。皆さまの引き続きのご支援、ご指導をお願い申し上げて、私のご挨拶とさせていただきます。本日は本当におめでとうございます。

◆来賓祝辞



川西 徹氏

内閣府食品安全委員会 委員

堤先生はいち早くナノ粒子の生体内動態について、微量同定、定量化に成功して、ナノマテリアルがマウスの血液精巣関門や血液胎盤関門等を突破し得ること、さらには胎児に影響を及ぼす可能性など、特徴的な特性を誘発し得ること等、極めて独創的な研究成果を得ました。堤先生はこの成果を活用し産業界と連携し、安全で有用なナノ食品の開発研究も行なっているという、ユニークかつ斬新な研究を展開され、ナノテクノロジーの安全性研究を先導する画期的な成果を上げてられました。この度の遠山椿吉賞の受賞を契機に、さらに研究面で大きな展開をされ、食品安全分野での人材育成を活発に展開していただくことを、私自身大きく期待するところです。ご受賞、誠にありがとうございます。



岡本 徹氏

大阪大学微生物病研究所 感染機構研究部門 高等共創研究院 教授

受賞の研究テーマでありますトキソプラズマ感染症というのは、知る人ぞ知る非常にマイナー、けれど私たちの生活には身近にあるような感染症であり、日本でも研究者が非常に少ないような研究分野です。伴戸先生はこのトキソプラズマ感染症に関し、大阪大学微生物病研究所で始められた研究だと思います。伴戸先生は非常にコツコツと丁寧に仕事をされる印象がありますが、伴戸先生の努力の成果が山田和江賞受賞という結果に至りまして、日の目を見る結果となったことを大変嬉しく思っております。サイエンスに誠実な丁寧なお仕事をさらに発展させ、このトキソプラズマ感染症の感染の制御など、治療薬の開発につながっていくような研究をさらに展開していただきたいと祈念し、私の祝辞とさせていただきます。

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞

堤 康央 (つつみ やすお) 氏

大阪大学大学院 薬学研究科 荣誉教授



この度は栄えある「遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞」遠山椿吉賞を賜りましたこと、身にあまる光栄であり、また身が引き締まる思いです。理事長の山田先生、また副理事長の高橋先生、所長の宮田先生、理事の安田先生はじめとする一般財団法人東京顕微鏡院および医療法人社団こころとからだの元氣プラザの皆さま方、選考委員長の渡邊先生はじめとする選考委員の先生方にあらためまして御礼を申し上げたいと思います。今回の受賞に際しましては、私が学生時代から教授に至るまで、内閣府食品安全委員会委員川西先生による長きにわたる多大なるご指導、絶大なるご支援の賜物でございます。この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。本日は教え子が来てくれますけれども、彼らの努力の結晶が今回の受賞に結び付いたものであります。本当にありがとうございます。今回の受賞を励みに、今後の食品安全あるいは公衆衛生にかかるヒト健康環境の確保に関し、ますます研究教育、あるいは人材育成にまい進していく所存であります。引き続き、ご支援ご指導賜りますように、伏してお願いを申し上げます次第であります。最後に、これまで私を支えてくれました家族、特に家内に感謝したいと思います。この度は本当にありがとうございました。

遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞 山田和江賞

伴戸 寛徳 (ばんど ひろのり) 氏

旭川医科大学 医学部 寄生虫学講座 准教授



この度はこのような栄えある賞をいただき、身にあまる光栄でございます。誠にありがとうございます。審査をしていただいた多くの先生方、また財団の各関係者の皆さま方に心よりお礼を申し上げたいと思います。寄生虫症の研究は、国内においてはほかの感染症と比較すると注目を浴びることの少ない研究分野であり、近年の日本における寄生虫症の研究は衰退が危ぶまれているというのが現状です。そういった中でこのような大変栄えある賞をいただきましたことは、私が今後も寄生虫症の研究を続けていく上で非常に大きな励みとなります。本研究はまだまだ始まったばかりの基礎研究ではありますが、今後も研究を進めていき、精進していき、将来的には多くの人々の命を救うような研究を続けていきたいと思っております。祝辞をいただきました岡本先生をはじめ、この研究を多くの先生方のご協力の下、行うことができましたこと、また、私が研究を進める上で大変お世話になってきた家族にも感謝の意を申し上げたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。

学術振興 (調査・研究)

調査・研究および、食の安全に関する学会への支援

当法人では、WHOのアクションプランに呼応した薬剤耐性調査を2017年から5年間に渡り継続しました(2021年で終了)。食の安全に関する学会の支援も行っています。

■2021年に食品従事者から検出されたサルモネラ属菌の血清型と薬剤耐性

1980年代頃から抗菌薬の効かない薬剤耐性菌が増加し、感染症の治療に大きな問題が生じています。このため2015年にWHOは薬剤対策のアクションプランを提言し、世界に向けて調査や制御対策を要請しました。

当法人の臨床微生物検査部では、食品従事者から検出されたサルモネラ属菌を対象に2017年から薬剤耐性頻度の検討を行ってきました。今回、2021年に分離されたサルモネラ属菌200菌株を対象とした薬剤耐性成績を2020年に実施した成績と比較検討を行いました。

1. サルモネラ属菌の血清型別

供試した200菌株は46の血清型に型別されました。主な血清型は表1に示すように34菌株(17.0%)が血清型Schwarzengrundに型別され、ついでThompson25菌株(12.5%)、NewportおよびSaintpaulが15菌株(7.5%)、Infantisが14菌株(7.0%)で、昨年度の調査に引き続きSchwarzengrundが最も多い血清型でした。

2. サルモネラ属菌の薬剤耐性

供試した200菌株のうち89菌株(44.5%)が1剤から10剤の薬剤に耐性株でした。このうち2剤の薬剤耐性株が19菌株(9.5%)、3剤以上の薬剤耐性株が42菌株(21.0%)でした。最も高頻度に型別されたSchwarzengrundは、供試菌株34菌株すべてが耐性株であり、3薬剤以上の多剤耐性株も27菌株(79.4%)ありました。ついで検出されたThompson25菌株は1剤以上の薬剤耐性株が6菌株(24.0%)、感受性の株が19菌株(76.0%)と感受性が多い結果となりました。このように血清型による薬剤耐性株の出現状況に著しい差異が認められ、このような耐性株の出現状況は昨年とほぼ同等の結果であり興味深い傾向でした。

まとめ

2021年に分離されたサルモネラ属菌の血清型は、図1に示すように2020年に分離された血清型とほぼ同様でした。また、分離菌株の耐性率は40.5%から44.5%とやや増加しました。また、3薬剤以上の多剤耐性率においては25.5%から21.0%とやや減少しました。耐性率の高いSchwarzengrundが占める割合が18.5%から17.0%とやや減少したことが耐性率減少の原因の一つと考えられます。2017年から2021年までの5年間にわたり、食品従事者から検出されたサルモネラ属菌の血清型と薬剤耐性の動向を、薬剤耐性モニタリング事業として継続的に調査し、学会発表、論文投稿等の情報発信をしてきましたが、今年度にて本事業は終了となります。今後は、また形を変えて社会に貢献できる調査を行い、情報を提供していきたいと思います。

学会等支援

日本食品微生物学会への支援

当法人は、1989(平成元)年4月より34年にわたり学会事務局として学会活動を支援しています。同学会は食品の微生物に関する学術研究の推進、並びにその成果の普及を図り、食品の安全および機能の向上に寄与することを目的とした学会です。企業・行政・研究機関のいわゆる産官学で構成されています。



日本カンピロバクター研究会への支援

当法人は、2011(平成23)年度から研究会事務局として支援しています。カンピロバクターが食品媒介病原体であることから、カンピロバクター感染症や食中毒による健康被害は増加、細菌性下痢症では最も主要な病原菌です。本菌の研究者により、研究・調査・感染症制御など様々な分野の検討を行い、国民の保健医療や食品衛生に貢献することを目的とした研究会です。



※研究会の画像は2014年に撮影

図1 2020年と2021年に分離されたサルモネラ属菌の血清型別の比較

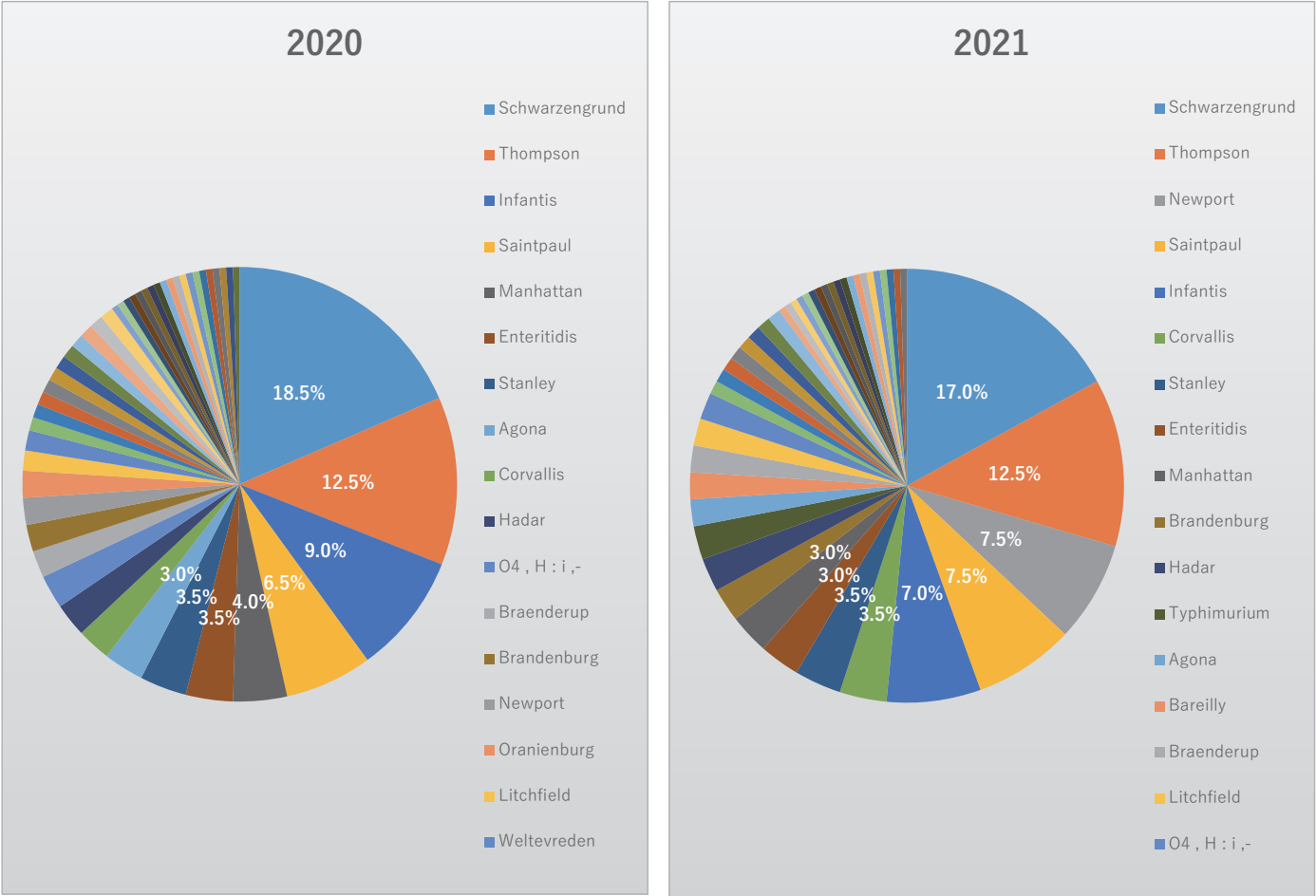


表1 2021年に分離されたサルモネラ属菌の血清型別および薬剤耐性

	血清型名	菌株数	感受性	1剤以上耐性合計		1剤のみ耐性		2剤のみ耐性		3剤以上耐性	
				菌株数	(%)	菌株数	(%)	菌株数	(%)	菌株数	(%)
1	Schwarzengrund	34	0	34	(100.0)	1	(2.9)	6	(17.6)	27	(79.4)
2	Thompson	25	19	6	(24.0)	6	(24.0)	-	-	-	-
3	Newport	15	13	2	(13.3)	2	(13.3)	-	-	-	-
3	Saintpaul	15	14	1	(6.7)	1	(6.7)	-	-	-	-
5	Infantis	14	6	8	(57.1)	1	(7.1)	4	(28.6)	3	(21.4)
6	Corvallis	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-
6	Stanley	7	5	2	(28.6)	-	-	1	(14.3)	1	(14.3)
8	Enteritidis	6	0	6	(100.0)	4	(66.7)	2	(33.3)	-	-
8	Manhattan	6	2	4	(66.7)	-	-	4	(66.7)	-	-
10	Brandenburg	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-
10	Hadar	5	0	5	(100.0)	-	-	2	(40.0)	3	(60.0)
10	Typhimurium	5	3	2	(40.0)	-	-	-	-	2	(40.0)
13	Agona	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-
13	Bareilly	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-
13	Braenderup	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-
13	Litchfield	4	2	2	(50.0)	2	(50.0)	-	-	-	-
13	O4, H:i,-	4	1	3	(75.0)	-	-	-	-	3	(75.0)
	その他の血清型 (29型)	36	22	14	(38.9)	11	(30.6)	-	-	3 *	(8.3)
	合計	200	111	89	(44.5)	28	(14.0)	19	(9.5)	42	(21.0)

対象薬剤：アンピシリン、セファゾリン、セフォタキシム、ストレプトマイシン、ゲンタマイシン、カナマイシン、テトラサイクリン、クロラムフェニコール、コリスチン、ナリジクス酸、シプロフロキサシン、スルファメトキサゾール+トリメトプリム合剤

※血清型：Kentucky 1株、Minnesota 2株

普及啓発 (健康セミナー)

働き盛りからの予防医療の普及啓発

1994(平成6)年より「働く人の健康増進セミナー」を7回開催、「働く人の健康教育講座」を15回開催するほかシンポジウムも多数開催してきました。

2008(平成20)年から『健康日本21』*に基づく健康セミナーシリーズを展開し、2018(平成30)年度より認知症のセミナーシリーズを3年計画で開催。2021(令和3)創立130周年記念講演を開催し、2022年度より「100歳までの健康長寿」を考えるセミナーシリーズを3年計画で開催しています。

*21世紀における国民健康づくり運動

健康に関するセミナー

人生100年と言われる時代、長い人生を楽しむには、健康寿命(心身ともに自立した活動的な状態で生存できる期間)をできるだけ伸ばす健康づくりが重要です。本シリーズでは、健康寿命延伸の妨げとなる要因として注目される「骨粗しょう症」とフレイル(身体・認知機能の低下)を取り上げました。

◆シリーズ

「100歳まで元気に健康長寿をどう生きるか」
～骨粗しょう症とフレイルの予防と対策

第1回「100歳までの健康長寿を
めざした骨折予防を考える」

企業、自治体、学校等の人事、産業保健、
健康管理担当者および
一般の方を対象とした実践セミナー

日時：令和4年11月24日(木) 14:00～16:00

※後日、YouTubeにてオンデマンド配信

会場：JPタワーホール&カンファレンス
カンファレンスルームA

後援：厚生労働省、東京都、
健康日本21推進全国連絡協議会、
日本医師会、東京都医師会

参加者：94名

企業、自治体、学校等の人事、産業保健、健康管理担当者および一般の方を対象とした実践セミナー

シリーズ「100歳まで元気に健康長寿をどう生きるか」
～骨粗しょう症とフレイルの予防と対策

第1回「100歳までの健康長寿を
めざした骨折予防を考える」

人生100年と言われる時代、長い人生を楽しむには、健康寿命(心身ともに自立した活動的な状態で生存できる期間)をできるだけ伸ばす健康づくりが重要です。
本シリーズでは、健康寿命延伸の妨げとなる要因として注目される「骨粗しょう症」とフレイル(身体・認知機能の低下)のうからできる予防策を皆さんで考えていきたいと思っています。

日時：令和4年11月24日(木) 14:00～16:00 (開場:13:30※終了時刻は予定です)
会場：JPタワーホール&カンファレンス カンファレンスルームA (JR東京駅 徒歩1分)
定員：200名 (先着順) ※後日、オンデマンドにて配信予定

主催者挨拶 どころとからだの元氣プラザ 統括所長 中村 哲也

プロローグ 「100歳を元気に過ごすために、骨を大切にしよう」
寺本 民生 先生
帝京大学臨床研究センター センター長
どころとからだの元氣プラザ 理事

講演 「100歳までの健康長寿をめざした骨折予防を考える」
荒井 秀典 先生
国立長寿医療研究センター 理事長

質疑応答・対話 座長 寺本 民生 先生

ご聴講は、こちらのQRコードから
アクセスしてお申込みください▶

主催 一般財団法人 東京顕微鏡院 / 医療法人社団 どころとからだの元氣プラザ
後援 厚生労働省、東京都、健康日本21推進全国連絡協議会、日本医師会、東京都医師会(予定)

◆プログラム

◆主催者挨拶

中村 哲也

どころとからだの元氣プラザ統括所長

◆プロローグ

「100歳を元気に過ごすために、
骨を大切にしよう」

寺本 民生 先生

帝京大学臨床研究センター センター長、
どころとからだの元氣プラザ 理事

◆講演

「100歳までの健康長寿を
めざした骨折予防を考える」

荒井 秀典 先生

国立長寿医療研究センター 理事長

◆質疑応答・対話

座長 寺本 民生 先生

◆主催者挨拶:中村 哲也

((医社)どころとからだの元氣プラザ統括所長)



健康長寿と骨の関係に関心をお持ちいただき、骨の最新情報を得て、お帰りいただきたいと思います。本日のセミナーがご自身、ご家族の健康長寿に寄与することを願っております。

■プロローグ:「100歳を元気に
過ごすために、骨を大切にしよう」

寺本 民生先生(帝京大学臨床研究センターセンター長、
(医社)こころとからだの元氣プラザ理事)



要介護要因の上位に筋骨格系があり、健康長寿のために自らができる対策として特に男性はメタボに気をつけ、女性はロコモに気をつけていくことが大切であると述べられました。

■講演:「100歳までの健康長寿を
めざした骨折予防を考える」

荒井 秀典先生(国立長寿医療研究センター理事長)



骨粗しょう症は慢性疾患で、発症から20年以上も向き合う場合もあるため、一次予防、二次予防の対策をし「健康寿命」をできるだけ長くすることが重要であるとお話しされました。

■質疑応答・対話

座長:寺本 民生先生



事前に募集した質問にお答えいただく形で対話が進み、食事・睡眠・運動など自分の適正な量を知ること重要であり、方法としてアプリの活用があることなども話題に上がりました。

■会場の様子



3年ぶりの対面セミナーの開催となり、感染対策のためマスク着用で指定席での受講としました。
人数の制限を設けたにもかかわらず、多くの受講者にご参加いただきました。

■オンデマンド配信



セミナーの様子をYouTubeにてオンデマンド配信し、広く普及啓発に努めています。

<https://www.youtube.com/watch?v=DVVTbyz3wAk>

普及啓発 (食と環境のセミナー)

身近な食や環境の問題について

当法人では、企業の食品衛生担当者や環境衛生担当者対象のセミナーを1976(昭和51)年より40年以上にわたって開催し、最先端の食や環境の情報提供に努めてきました。2019(令和元)年より中止となっていた食と環境のセミナーを4年ぶりに開催しました。

■食と環境のセミナー

第94回 食と環境のセミナーは「コロナ禍におけるHACCP衛生管理」をテーマに、大山明日子先生による「食品衛生行政の現状と課題」、山下安信先生による「外食チェーンの衛生管理の現状と課題」の2つの講演を行い、それぞれのテーマについて、先生方にご講演いただきました。

◆第94回食と環境のセミナー 「コロナ禍における HACCP衛生管理」

食品企業の品質管理および開発部門の
ご担当者を対象とした実践セミナー

日 時：令和4年12月8日(木) 13:30～16:15
会 場：秋葉原コンベンションホール&Hybridスタジオ
2階コンベンションホール
参加者：120名

◆プログラム

◆主催者挨拶

宮田 昌弘
(一財)東京顕微鏡院
食と環境の科学センター所長

◆講演 1

「食品衛生行政の現状と課題」

*質疑応答含む

大山 明日子 先生
東京都健康安全研究センター
広域監視部食品監視第一課 課長

◆休憩

◆講演 2

「外食チェーンの衛生管理の
現状と課題」

*質疑応答含む

山下 安信 先生
株式会社フードサンテーション78 代表取締役
日本マクドナルド株式会社 技術顧問

食品企業の品質管理および、開発部門のご担当者を対象とした実践セミナー

第94回 食と環境のセミナー

「コロナ禍におけるHACCP衛生管理」

第94回 食と環境のセミナーは「コロナ禍におけるHACCP衛生管理」をメインテーマに、大山明日子先生による「食品衛生行政の現状と課題」、山下安信先生による「外食チェーンの衛生管理の現状と課題」の2つの講演を行います。それぞれのテーマについて、先生方におかれましてご講演をいただきます。

参加費 無料
定員200名
(先着順)

日 時 令和4年 12/8(木) 13:30～16:15
(開場:13:00、終了時刻は予定です)

会 場 秋葉原コンベンションホール&Hybridスタジオ 2階コンベンションホール
(JR秋葉原駅 徒歩約1分 / 千代田区外神田1-6-13)

主催 公益財団法人東京顕微鏡院 食と環境の科学センター 所長 宮田 昌弘

講演 1	講演 2
「食品衛生行政の現状と課題」 講師 東京都健康安全研究センター 広域監視部食品監視第一課 課長 大山 明日子 先生	「外食チェーンの衛生管理の現状と課題」 講師 株式会社フードサンテーション78 代表取締役 日本マクドナルド株式会社 技術顧問 山下 安信 先生

一般財団法人東京顕微鏡院 公益事業室
〒100-0005 東京都千代田区千代田4-6-11 Tel.03-5129-0011
https://www.tokyo-microscope.ac.jp/

ご講演は、こちらのQRコードから
アクセスしてお申込みください

■主催者挨拶:宮田 昌弘

((一財)東京顕微鏡院 食と環境の科学センター所長)



本日はお忙しい中、セミナーにご参加いただきありがとうございます。第94回ということで、4年ぶりの開催となります。本日は行政の代表と企業の代表としてお二人のプロフェッショナルにご講演いただきます。本日の講演がみなさまの今後の業務に反映されることを願います。

■講演:「食品衛生行政の現状と課題」

大山 明日子先生 東京都健康安全研究センター 広域監視部食品監視第一課 課長



■大山先生の講演

コロナ禍における衛生管理の変化と現状、行政の具体的な取組を解説され、施設や業種に合った手引書や運営方法などをご紹介いただきました。



■受講者のアンケートからは、取り巻く環境変化への対応など現状を分かりやすく説明いただき把握できた。手引書の存在を知らなかったので今後活用したい、という意見をいただきました。

■講演:「外食チェーンの衛生管理の現状と課題」

山下 安信先生 株式会社フードサニテーション78 代表取締役、日本マクドナルド株式会社 技術顧問



■山下先生の講演

外食産業の衛生管理の現状課題、これからのフードチェーン感染防止対策と衛生管理のポイントや事業者が行政と現場で連携するポイントなどを解説いただきました。



■受講者のアンケートからは、コロナ禍での外食産業の動向、消費者のニーズの変化によるデリバリーの需要の拡大、リスクマネジメントによる衛生管理など、有意義な内容で大変勉強になった、という意見をいただきました。

■オンデマンド配信



セミナーの様子を期間限定でオンデマンド配信し、広く普及啓発に努めました。

普及啓発 (次世代の育成)

次世代を担うこどもたちへ

2006 (平成18) 年より始めた夏休み「こども研究者体験」セミナーも、17年目を迎えました。創業者遠山椿吉の生誕地、山形県山辺町と120周年を機に交流を始めて10年目となり、意義深い交流が育まれています。サイエンスを学ぶ楽しさ、食品の安全性や健康に関心を持つきっかけとして、次世代を対象とした衛生思想の普及啓発に努めています。

■令和4年度 夏休み「こども研究者体験」セミナー 白衣を着て、手についた菌や食べ物に含まれる色を観察しよう!

7月28日(木)～7月29日(金)

会 場：豊海研究所4F研修室

参加人数：11名

講師・協力：理化学検査部、微生物検査部

後 援：東京都中央区教育委員会

協 力：山形県山辺町教育委員会

参加校及び対象者：中央区立小学校7校(5・6年生)
山辺町山辺小学校(6年生)



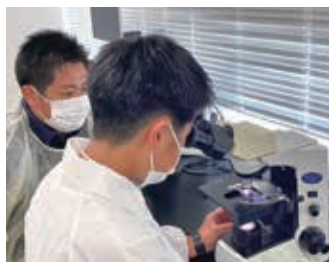
参加した小学生と講師のみなさん。

■研究1：「手についている菌を見つけてみよう！」

手に付着している菌を調べるために、各自、手を洗う前と洗った後の手を培地につけ、それぞれ孵卵器で24時間培養(35℃)し、菌数の違いを調査しました。



手を培地につけ、菌を付着させます。



培養した菌を顕微鏡で観察します。

■研究2：「手の汚れを数値にしてみよう！」

手を洗う前と後では、ATPふき取り検査[汚染物質(=ATP量)を高感度に測定する検査]で、数値がどれだけ違うかを自分の手で実験して調べました。



綿棒で手の汚れをふき取ります。



測定器で手の汚れが数値化されます。

■研究3：「食品から取り出した色素で酸性・アルカリ性を調べよう！」

紫キャベツの天然色素「紫色」と、カレーの香辛料のターメリックの「黄色」を利用してpH試験紙を作り、身の回りの食品などが酸性かアルカリ性かを調べました。



食品からの色素でPH試験紙を作成します。



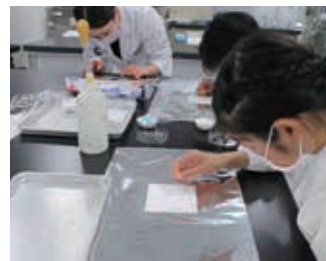
お茶やスポーツドリンクなどの酸性・アルカリ性を調べます。

■研究4：「食べ物に含まれる色(着色料)を調べよう！」

着色料をテーマにペーパークロマトグラフィーという分析法で、チョコレートから色素を抽出し、合成着色料について学びました。



チョコレートから着色料を抽出します。



抽出色素を毛细管でスポットします。

《参加者の感想》

「紙がみるみるピンクや茶色に変わっていくのが面白かった。スパイスがアルカリ性にしか反応しないのはなぜだろうと思った。」
「手にはいろいろな形、色、大きさの菌がいて、洗ってもとれない菌もいることがわかった。手洗い後の結果で菌が多かったところを念入りに洗うようにしたい。」

普及啓発

(インターネットによる
情報提供)

食と環境、健康に関する情報発信とメールマガジンの運営・管理

東京顕微鏡院のホームページにおいて、公益事業に関する周知を行ったほかホームページのリニューアルとともに、関連ページを整理して閲覧しやすくしました。また、暮らしに役立つ健康情報、食の安全と生活環境衛生の知識の啓発を目的として、毎月1回メールマガジンを配信しています。

■東京顕微鏡院ホームページにおいて公益事業を周知

公益事業における、遠山椿吉賞の募集告知や受賞者の発表、セミナー開催の告知、講演録の出版についての広報などを東京顕微鏡院のホームページに掲載し、広く情報提供を行ったほか、ページの管理も実施しました。



(遠山椿吉賞、セミナー、出版と、主要事業ごとに集約され、掲載されている公益事業ページ)

■ホームページのリニューアル

2022(令和4)年12月、東京顕微鏡院のホームページはデザインを一新し、ページ内のコンテンツを整理して、サービス内容が一目で分かるようになりました。

公益事業のページも、事業内容を集約して掲載し、閲覧しやすくしました。あわせて「食と環境のコラム」ページも読みやすく整理し、衛生思想の普及啓発の向上を図りました。



(リニューアルされた東京顕微鏡院 HP トップページ)

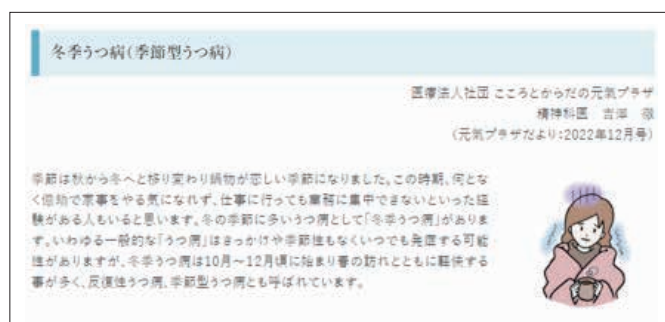


(見やすく整理された食と環境のコラムページ)

■メールマガジンによる普及啓発

公益事業を共催する(医社)こころとからだの元気プラザのメールマガジン『元気プラザだより』の企画編集に協力し、予防医療および、食品の安全や生活環境衛生に関する知識の啓発のため、毎月1回配信しています。

2022(令和4)年度は、日常の様々な健康に関する問題にドクターがアドバイスする「ドクターコラム」。健康につながる食生活を紹介する「管理栄養士、健康運動指導士の健康バックアップコラム」、家庭における食中毒の予防法などを連載した「食の安全と環境衛生のコラム」という、計3種類のコラムを掲載しました。



(近年注目されるようになった「季節性うつ(冬季うつ)」について取り上げたドクターコラム)

出版関連

健康情報の普及および啓発、活動の情報開示

予防医療の普及啓発のため、講演内容を2008(平成20)年度から継続して小冊子で発刊しています。本年度は創立130周年記念シンポジウムの講演録を発行しました。また、両法人の「事業年報」を発刊し、公益事業として遠山椿吉賞受賞記念講演の講演録を掲載しました。公益事業の年次ディスクロージャー誌として「公益事業レポート」を発刊しました。皆様に幅広くお配りし、公益事業の情報公開を行っております。

■創立130周年記念シンポジウム

「新型コロナウイルス感染症とは～

新しい日常で、いま私たちにできること」講演録

令和4年2月、「新型コロナウイルス感染症とは～新しい日常で、いま私たちにできること」というテーマで、創立130周年記念シンポジウムをYouTubeにてオンデマンド配信いたしました。講師の先生方のご理解、ご協力をいただき、講演録として発刊いたしました。



発行日：2022(令和4)年9月
サイズ：B5判
ページ：80ページ
発行部数：1,000部 頒価：1,000円

目次

プロローグ

近年の新興感染症

渡邊 治雄

講演1

COVID-19のこれまで、そしてこれから

尾身 茂

講演2

新型コロナウイルス感染症への対応について

大曲 貴夫

講演3

来るべきパンデミックへの対応について

～新型コロナウイルス感染症との対峙～

舘田 一博

■遠山椿吉賞受賞記念講演 講演録

両法人の「事業年報」を発刊し、公益事業として遠山椿吉賞受賞記念講演の講演録を掲載しました。

第7回 健康予防医療賞

「フレイル予防を軸とした新しい介護予防実現のための官民協働システム構築」

◎受賞者 飯島 勝矢 氏

(東京大学高齢社会総合研究機構 機構長・未来ビジョン研究センター 教授)



発行日：2022(令和4)年8月31日
サイズなど：A4判(講演録：11ページ)
CD-ROM付属
発行部数：500部
配布先：契約先、関係行政機関、
関係研究機関、関係団体など
※当法人ホームページでも公開しています。

■公益事業レポート2021



発行時期：2022(令和4)年6月
サイズなど：A4判、16ページ
発行部数：800部
※当法人ホームページでも公開しています。

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの歴史と公益事業

～三つの世紀にわたる歩み

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの主な動き	【戦前】	普及啓発活動、出版、その他公益活動など
遠山椿吉、佐藤保、川上元治郎が協同して、京橋区にあった成医会の一室を借り、「東京顕微鏡検査所」を創立 検査業務開始	1800年～	『結核黴菌簡便検査法』出版
病原的黴菌標本の頒布を開始し、本所考案の喀痰沈殿器を製造販売	1891(明治24)年	『顕微鏡』第1号 (1894～1944年) ※後に「東京顕微鏡学会雑誌」に改称し、1944(昭和19)年戦時統制令で休刊するまで50年間発行
細菌検査の実務指導を行う講習科を開講 名称を東京顕微鏡院と改称	1892(明治25)年	機関誌「顕微鏡」第1号発行
種痘術講習科を新設。培養基の発売開始	1894(明治27)年	啓蒙用幻灯映画製作 「顕微鏡の祖」マルピギー200年記念式典、本院にて举行
飲料水の検査を開始	1895(明治28)年	コレラ講習会を開催
母乳検査を開始	1896(明治29)年	回帰熱講習会を開催
事業拡大にともない、神田区小川町に移転	1899(明治32)年	ペスト講習会を開催
	1900年～	第2回日本医学会(1893(明治26)年)東京顕微鏡院が、東京慈恵医院、海軍軍医学校、伝染病研究所、大日本製薬会社と並び、参観となる
遠山椿吉院長、初代東京市衛生試験所長に任ぜられる ペスト試験室を新設	1903(明治36)年	上水協議会(日本水道協会の前身)(1904(明治37)年)遠山椿吉の呼びかけで設立
遠山椿吉院長、医学博士の学位を授与される	1907(明治40)年	来日したコッホ博士を囲む生花の会(於帝国ホテル) 前列左からロベルト・コッホ博士、北里柴三郎博士、後列左から2人目が遠山椿吉
保健部を新設。広く世間の人びとに対し、健康診査(健康診断)と衛生上の協議(衛生相談)を開始	1908(明治41)年	「結核征伐の歌」
遠山椿吉院長、東京市参事会より独ベルリン市開催万国衛生および民勢学会参列、欧州各都市衛生設備実況調査を命ぜられる	1910(明治43)年	
同時に、内務省より欧米都市における汚物掃除の実況調査を囑託(翌年帰国)	1914(大正3)年	遠山椿吉院長、来日したロベルト・コッホ博士、北里柴三郎博士を招待し、生花の会を開催
遠山椿吉院長、内閣より医術開業試験委員を命ぜられる	1915(大正4)年	「結核予防善悪鑑」発行、「結核征伐の歌」を発表
(院長、長年来の研究による)脚気治療薬うりひんを製品化	1922(大正11)年	「遠山博士脚気病原因之研究」発行
創立30周年記念祝賀会	1923(大正12)年	
9月1日関東大震災により、院舎およびその設備をすべて焼失	1927(昭和2)年	「人生の意義と道徳の淵源」出版。天皇に献上
9月6日麻布区富士見町に仮院舎を建設し、10月1日一般業務を再開	1928(昭和3)年	
内務大臣より財団法人の設立許可を受ける	1929(昭和4)年	脚気の無料診療を開始
遠山椿吉、肺がんのため遠逝、享年71	1930(昭和5)年	第1回脚気無料巡回診療実施(財団法人東京顕微鏡院社会部)
レントゲン深部治療開始	1935(昭和10)年	結核予防週間および健康週間に参加し、無料喀痰検査などを実施
創立50周年記念式典(1940年)	1945(昭和20)年	
戦災により、以後10年にわたり事業中断	【戦後】	
遠山正路院長より事業を継承	1954(昭和29)年	
診療所を開設、細菌検査所を再開	1955(昭和30)年	



東京顕微鏡院講習科第1回卒業式
(1892年)



うりひん広告



震災後に復興した東京顕微鏡院本院(1925年竣工)同年、病理組織検査開始、レントゲン科新設

歴代代表者	(在任期間)	歴代代表者	(在任期間)	歴代代表者	(在任期間)
創立者(院長) 遠山 椿吉	1891~1928年	第4代(院長) 高橋 悌三	1957~1967年	第7代(理事長) 下村 満子	1995~2007年
第2代(院長) 遠山 正路	1929~1954年	第5代(理事長) 山田 匡蔵	1967~1989年	現理事長	山田 匡通 2007年~
第3代(院長) 細谷 省吾	1955~1957年	第6代(理事長) 山田 和江	1989~1995年		

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの主な動き		普及啓発活動、出版、その他公益活動など	
職域を対象とした健康診断業務を開始。外来診療開始			
臨床検査は病院からの受託のほか、学校保健法による 集団検査を拡大	1967(昭和42)年		
東京都の委託を受け、小中学生の 大気汚染の影響調査を実施(5年継続)	1972(昭和47)年		
建替えによる新院舎完成。	1974(昭和49)年		
人間ドック事業を開始。付属臨床検査所を登録			
食品衛生法に基づく厚生大臣指定検査機関の指定を受け、 食品衛生検査所を開設	1975(昭和50)年		
がん検診(胃、子宮、乳房)開始。多摩分室を立川に開設	1976(昭和51)年		
	1978(昭和53)年	離島村民の健康管理を目的とした 「小笠原健康な村づくり事業」を開始 「小児ぜん息母親教室」、食品衛生セミナーなどを開催	
水道法に基づく厚生大臣指定検査機関の指定を受ける (簡易専用水道検査)	1979(昭和54)年		
立川衛生検査センターを開設	1986(昭和61)年	再興30周年記念シンポジウム「21世紀のいのちと生活」を開催	
付属第2臨床検査所を登録	1987(昭和62)年	学術普及誌「健康と環境」創刊(~2000年)	
	1991(平成3)年	創立100周年記念シンポジウム「21世紀への生命潮流」を開催	
	1992(平成4)年	シンポジウム「ベイブリッジフォーラム '92-21世紀への対がん戦略」を開催 平成4年度より事業年報の発行開始	
食品検査施設を移転し、日本橋研究所を開設 (2001、2002、2005年に順次拡大)	1996(平成8)年		
立川事務所を開設、食品等分析調査研究所を合併 (1998年、食と環境の科学センター検査第3部に改組)	1997(平成9)年	シンポジウム「新時代の高血圧管理」 「職場と住宅環境を考える」などを開催	
会員制人間ドックを開始	1998(平成10)年	シンポジウム「新しい時代の糖尿病対策」 「はたらく女性とメンタルヘルス」などを開催	
	2000年~		
食と環境の科学センター日本橋研究所に検査第3部を 移転し、拡大		創立110周年記念日米メディカルシンポジウム 「21世紀の女性と性(ジェンダー)と健康」を開催	
トータルヘルスセンターBe-Well、 女性のための生涯医療センターViViを開設	2001(平成13)年		
	2002(平成14)年	創立110周年記念シンポジウム「食の安全と健康を考える」 を開催	
医療部門を統合・拡充し、 医療法人社団こころとからだの元氣プラザを 設立	2003(平成15)年	女性のための生涯医療センターViVi 開設1周年記念 シンポジウム「アダムとイブの医療革命」を開催	
水道法改正により、厚生労働大臣指定検査機関から、登録検査 機関への変更の認可を受ける	2004(平成16)年		
食品衛生法改正により、厚生労働大臣指定検査機関から、登録 検査機関への変更の認可を受ける	2005(平成17)年	東京顕微鏡院創立115年、こころとからだの元氣プラザ創立3年 記念シンポジウム「いのちとは何か、生きるとは何か」を開催	
	2007(平成19)年	メディカル・シンポジウム「医療の未来、日本の未来 -なぜ日本では高度先端医療が遅れているのか?」を開催	
立川研究所を一ヶ所に統合拡大		遠山椿吉生誕150年、没後80年を記念して遠山椿吉賞創設	
こころとからだの元氣プラザ Pマーク(プライバシーマーク) 認証を取得	2008(平成20)年		
こころとからだの元氣プラザ(飯田橋) 外来診療と女性のための生涯医療センターViViを統合	2009(平成21)年	「遠山椿吉記念 第1回 食と環境の科学賞」を西尾治氏、 同奨励賞を川崎晋氏に授与 遠山椿吉生誕150年記念シンポジウム 「東京の水の源流を探る ~豊かな東京の水利用を支える 日本の水、世界の水~」を開催	

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの主な動き		普及啓発活動、出版、その他公益活動など
こころとからだの元氣プラザ、アジュール竹芝総合健診センターの運営を受託 臨床検査部がこころとからだの元氣プラザの組織に移行 三菱化学メディエンスと共同運営で「元氣プラザ臨床検査センター」をスタート	2010(平成22)年	「遠山椿吉記念 第1回 健康予防医療賞」を鈴木隆雄氏、同「特別賞」を中村雅一氏に授与
3月11日 東日本大震災により、創立120周年記念式典・祝賀会、創立120周年記念顧客イベント中止 4月1日 創立120周年 立川研究所に「動物を用いる検査施設」開設	2011(平成23)年	「遠山椿吉記念 第2回 食と環境の科学賞」を塩見一雄氏、同「特別賞」を小泉昭夫氏に授与 創立120周年記念シンポジウム「アルツハイマー型認知症の治療・予防戦略—研究・治療・ケアの最前線から」を開催
創立120周年記念年頭式 豊海センタービル竣工 日本橋研究所が施設拡充に伴い、豊海研究所に移転	2012(平成24)年	「遠山椿吉記念 第2回 健康予防医療賞」を白木正孝氏、同「特別記念賞」を久山町研究グループ代表 清原裕氏に授与
4月1日に財団法人東京顕微鏡院は一般財団法人に移行、「一般財団法人 東京顕微鏡院」と名称変更 [ISO/IEC 17025:2005]を認定取得(放射能試験)※1 登録衛生検査所「元氣プラザ細胞病理コアテクノロジー」がスタート	2013(平成25)年	「遠山椿吉記念 第3回 食と環境の科学賞」を小西良子氏、同「功労賞」を石川哲氏に授与 「創立120周年記念誌」を刊行
元氣プラザビル3～5階の人間ドック・健診フロアを男女別フロアに改装 [ISO/IEC 17025:2005]を認定取得(食品試験：理化学、微生物)※1 「元氣プラザ臨床検査センター」機能を元氣プラザビル内に移設拡充し、院内施設化。これに伴い、衛生検査所登録を抹消	2014(平成26)年	「遠山椿吉記念 第3回 健康予防医療賞」を岡山明氏、同「特別賞」を伊藤千賀子氏、同「奨励賞」を西浦博氏に授与
	2015(平成27)年	「遠山椿吉記念 第4回 食と環境の科学賞」を新田裕史氏、同「奨励賞」を山口進康氏に授与
	2016(平成28)年	故山田和江名誉理事長・医師の50余年の功績を記念して、遠山椿吉賞50歳未満の応募者を顕彰する「山田和江賞」を創設 「遠山椿吉記念 第4回 健康予防医療賞」を野田光彦氏、同「山田和江賞」を石和田稔彦氏に授与
 DVD教材「これで納得! HACCPシステム導入のための7原則」	2017(平成29)年	「遠山椿吉記念 第5回 食と環境の科学賞」を加藤昌志氏、同「山田和江賞」を原田浩二氏に授与 DVD教材「これで納得! HACCPシステム導入のための7原則」を刊行
	2018(平成30)年	「遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞」を辻一郎氏、同「山田和江賞」を富岡公子氏に授与 eラーニング「はじめての食品表示」を実施
	2019(平成31/令和元年)	「遠山椿吉記念 第6回 食と環境の科学賞」を鈴木聡氏、同「山田和江賞」を杉山圭一氏に授与
[ISO/IEC 27001:2013]を認定取得 (ISMS) Pマーク (プライバシーマーク) 7回目の更新※2 [ISO/IEC 17025:2017]を認定取得 (化学実験、食品・医薬品試験) ※1 「動物を用いる検査施設」を豊海研究所に移設 「診療所こころとからだの元氣プラザ」神保町に移転	2020(令和2)年	「山田和江賞」の募集対象を40歳以下とした 「遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞」を上田豊氏、同「山田和江賞」を可知悠子氏に授与
こころとからだの元氣プラザ「健康経営優良法人2021」認定を取得 4月1日 東京顕微鏡院創立130周年 検査キットのインターネット販売を開始	2021(令和3)年	「遠山椿吉記念 第7回 食と環境の科学賞」を高野裕久氏、同「山田和江賞」を白崎伸隆氏に授与
こころとからだの元氣プラザ「健康経営優良法人2022」認定を取得 立川立飛南地区38号棟PCR検査センターを立川研究所内に開設	2022(令和4)年	「遠山椿吉記念 第7回 健康予防医療賞」を飯島勝矢氏に授与 創立130周年記念シンポジウム「新型コロナウイルス感染症とは～新しい日常で、いま私たちにできること」をオンデマンド配信
こころとからだの元氣プラザ「健康経営優良法人2023」認定を取得	2023(令和5)年	「遠山椿吉記念 第8回 食と環境の科学賞」を堤康央氏、同「山田和江賞」を伴戸寛徳氏に授与

※1 一般財団法人 東京顕微鏡院

※2 医療法人社団こころとからだの元氣プラザ

Our Credo 私たちの公益事業

1. 創業精神に則り、人びとの健康と、食品の安全、生活環境衛生向上のため、両法人の事業を基盤に、世の中に貢献します。
2. 時代の先を見つめ、先駆的な視点から発信することに努めます。
3. 職員が参画意識をもてる仕組みを作り、組織の活性化に生かします。

<顕彰制度>

- *遠山椿吉記念 第8回 健康予防医療賞 顕彰
(告知、応募論文募集、選考委員会開催、授賞式・記念講演・レセプション開催)
- *遠山椿吉記念 第9回 食と環境の科学賞(令和6年度)準備

<セミナー>

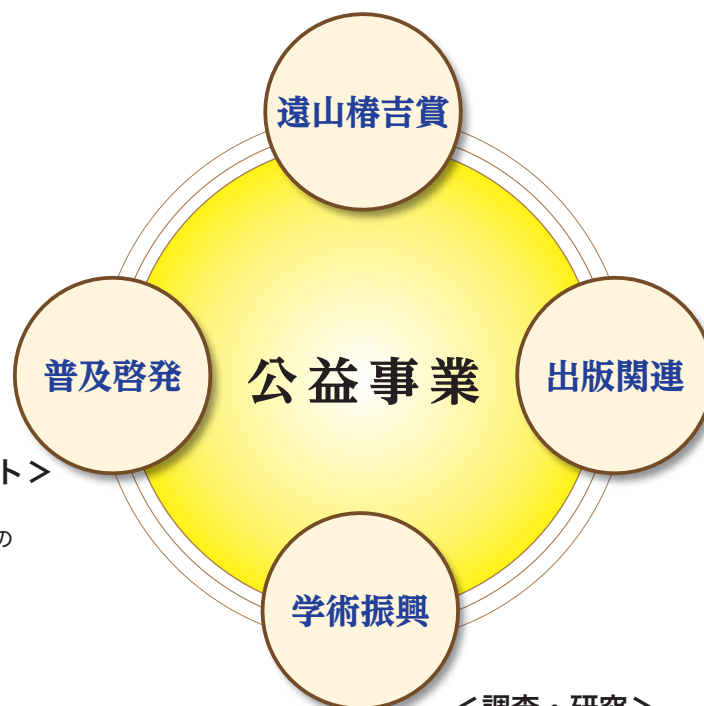
- *健康セミナー

<次世代育成>

- *夏休み
「こども研究者体験」
セミナー

<インターネット>

- *ホームページ、
メールマガジンからの
情報提供



<刊行物等>

- *遠山椿吉賞講演録
- *公益事業レポート

<調査・研究>

- *学会等支援

2023(令和5)年度 公益事業計画

発行:

一般財団法人 東京顕微鏡院 公益事業室

〒102-8288 東京都千代田区九段南4-8-32 TEL.03-5210-6651 <https://www.kenko-kenbi.or.jp>

医療法人社団 ころとからだの元氣プラザ 広報室

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング TEL.03-5210-6897 <https://www.genkiplaza.or.jp>